

子供の不審

さ お り

—エヂソンの質問—

「先生、どうして2+2=4ですか」。

これが先頃故人となりました米國の大發明家エヂソン翁の、子供の時分の質問でありました。並はずれた大きな頭を持つて、普通の子供より一年も二年も後れて、やつと小學校へ入學したものの、エヂソンは何時もおぼかんとして居て、何を教へられても覺えられないし、何を聞かれても、ほんやりで答へられなかつたのであります。

エヂソン「どうして2+2=4ですか」。

先生「2に2を足すから4になる」。

エヂソン「どうして2に2を足すから4になりませんか」。

先生「二つと二つだから、一つ二つ三つ四つで四になるのだ」。

エヂソン「どうして二つと二つだから四になるのですか」。

先生「お前は馬鹿だ」。

エヂソン「どうしてお前は馬鹿ですか」。

先生は箸にも棒にも懸らないエヂソンに愛想をつかして、エヂソンのやうな馬鹿の低能は自分には教へられないと言つて、匙を投げてしまひました。

兼好の不審

入學して、たつた三箇月で退學する事になつたエヂソンは「困つた」とも、「悲しい」とも思ひませんでしたが、エヂソンのお母様は馬鹿の子エヂソンの爲に、涙を流して悲しみました、エヂソンのお母様は、或牧師の娘で、若い時に教師をした経験の有る人でしたから、

「一つ家庭に於て自分自ら一心籠めてエヂソンの教育に當つて見よう」。

と決心致しました。かくてエヂソンのお母様は半年も経たぬうちに、我が子エヂソンは馬鹿どころか、並々ならぬ理解力と、優れた判断力を持つた賢い子である事を見出しました。

後、エヂソンは遂に宇宙電氣の靈界に於て、どうして心電氣であるかを解き明し、一生八十四年の間に、電燈・電話・電車等數百數十種の發明を成し遂げて、人類の大恩人、世界の發明王と仰がれるに至つたのであります。

彼の有名な徒然草の著者兼好法師が、年八歳の時、お父様に尋ねました。

「ねえ、お父様、佛様つてどんなもの」。

父「佛様つて人間がなつたのだよ」。

兼好「人間がどうして佛様になつたの」。

父「佛様に教へて頂いて佛様になつたのさ」。

兼好「其の佛様を教へた佛様は誰が教へたの」。

父「前から有つた佛様が教へたんだよ」。

兼好「其の前から有つた佛様つてどんな佛様なの」。

問ひ詰められて、お父様はすつかり閉口してしまひました。

「さうさね、天から降つたのか知ら？地から湧いたのか知ら？」

お父様はこゝろ言つて面白さうに笑ひました。